

# 3学期の活動報告 3歳児

見て、触れて、感じる経験



1月 雪遊び

雪が降って大喜びです。まずは、思いっきり触れていく3歳児です。次第に、年中、年長児がやっている様子を見て、“雪だるまを作ってみたい”“そりに乗ってみたい”と心を躍らせていきます。十分に見て触れて感じる時間を保障していきます。

「雪はさらさらしていた」「氷は透明だった」「おひさまが当たると、きらきらした」「ずっと持っていたら手が痛くなった」「段々氷が小さくなった」等、雪や氷に触れながら、子どもたちは不思議に感じ更に心が、大きく動いていきます。

発見したことを伝えたい気持ちは、先生に対するものから、友達への発信へと広がりを見せています。



指先を使って



3学期になると、手を使った遊びが、徐々に滑らかになってきました。両手の手首を固定してすり合わせてこまを回す、パズルのピースをずれないように合わせて置く、折り紙の角を合わせて折り目をつけるなど等、「やりたい」という気持ちで、子どもの意欲や根気を高めます。



遊びに使う物を製作

自分で作りたいものが明確になってきて、身近な空き箱や容器などを使って、ランドセル、ガラスの靴、帽子、お金など作っています。教師に自分のイメージしていることを言葉で伝える力もついてきて、教師も「だったらこれぐらいの大きさの箱がいいかな。」「ここをつなげると丈夫になるよね。」と一緒に考えています。じっくりと物に向き合っていく姿が頼もしく思えます。

友達が作っている物を見て、自分も作りたくなると、「どうやって作るか教えて。」「いいよ。」等子ども同士の、少しずつ、教え合う姿も見られるようになってきます。

出来上がると、友達と誘い合って、学校ごっこ、お店屋さん、お風呂屋さんと遊びが始まっていきます。



# 生活再現 (ごっこ遊び)



「今日は、パルパルへお出かけしましょう。」「お弁当を（鞆に）持って行こうね。」「いい考えだね。」「私は、大学へ行って来るね。」「うん、わかったよ。」と友達の言葉をよく聞いて会話が弾んでいます。

自分の遊びに必要な物を用意したり、椅子や囲いを運んで遊びの場を作ったりしていきます。自分の生活を再現しており、身振り手振りもなりきって表現しています。





# 遊びに使う物の 製作



遊びの中で、「パンを焼く釜戸があるといいよね。」ということになり、みんなで製作することにしました。この時期の製作では、遊ぶために必要なものを皆で作ることと、感触も含めた造形遊びの面白さとの両方を、十分に味わえるようにします。自分たちが手をかけたものが、作品になることで子どもたちは、イメージが豊かになり、更に発想が広がっていきます。このような日常的な遊びの中から、既に表現遊び（劇ごっこ）が始まっています。



一緒に楽しい



楽器に親しんだり、音楽に合わせて体を動かしたり、繰り返し面白さを味わえるお話で、言葉のやり取りを楽しんだりします。この時期には友達と一緒に遊ぶことの楽しさを感じています。



「パンを1つくださいな」



絵本「ゴリラのパン屋さん」



お話の世界に  
浸って



子どもたちの大好きなお話の「ゴリラのパン屋さん」の劇ごっこをすることにしました。自分の好きな動物になって、友達と簡単な言葉のやり取りを楽しんでいます。

役になって台詞をいう楽しさや掛け合いの面白さで、毎日違う役をする子どももいれば、同じ役をやり続ける子どももいます。こんな関りの中からも、相手の表現を感じ取り、自分の中に取り入れたり、「同じ」や「違い」を感じ取っていきます。

教師は、子どもたちが、体を使って表現することの面白さを経験できるように、声をかけたり、音楽をのせたりしていきました。



# 楽しみ会



役になるために、お面や洋服など自分で着たり脱いだりも出来るようになっていきます。

自分のお気に入りのパンが売り切れになり、寂しそうにしている友達に気が付いて、譲ってあげる優しい姿も見られました。こうして友達とのあたたかい関わりも劇遊びの中で見られました。友達と一緒に楽しさを共感しているからでしょうね。

お家の方から温かい拍手もいただき、子どもたちは楽しい体験がまた一つ増えました。